

子どもたちが進学、入学をして約1か月が過ぎました。しかし、4月21日から臨時休校となり、登校日以外、登校できない状態が続いています。ここまで登校日も含め、全員無遅刻、無欠席です。休校中、子どもたちは不安や不便を抱えながらも元気にがんばっているようです。ようやく、先が見えてきたような状況ですが、今できることを考え、みんなで頑張っていきましょう。保護者、地域の皆様にはご協力等よろしくお願い致します。遅くなりましたが、令和2年度の幸ヶ丘小学校の学校経営方針の骨子をお知らせします。

**幸ヶ丘小学校の学校の教育目標**

確かな学力、豊かな心、健やかな身体をもち、ふるさとを愛しながら自分に自信と誇りをもつ幸ヶ丘小の児童の育成

**学校経営ビジョン**

幸ヶ丘ならではの教育実践を通して、確かな学力と生きる力を身に付けた子どもを育成する。

- 1 少人数の利点を生かした教育実践を通して学力向上を図る。
- 2 子どもたちの将来に必要な資質を見据えた教育実践を通して生きる力の育成を図る。

めざす学校像 ○ 夢をもち、夢を育み、夢を伝え合う学校 ○ 花いっぱい元気いっぱい明るい学校 ○ 笑顔いっぱい思いやりのある学校	めざす児童像 ○ 考える子ども ○ やさしい子ども ○ 健康な子ども ○ 働く子ども	めざす教師像 ○ 子どもの可能性を信じ一人一人を大切に ○ 研修に励み、学び続ける教師 ○ 教師としての使命感に徹し、信頼される教師 ○ 心身ともに健康で明るい教師
---	--	--

知育 【学力向上の推進】	徳育 【豊かな心の教育の推進】	体育・食育 【健やかな身体・望ましい食習慣の育成】
1 複式解消によるきめ細かな指導の充実と「わかる・できる」授業づくり ○ 複式解消非常勤講師及び教頭による複式解消 ○ 個別指導の充実（アセスメントシートの活用） ○ 研修の充実・授業力向上 ○ ICTの活用（タブレットの効果的活用）（テレビ会議の実施） ○ Web 学習単元評価システムの活用 100% 2 小中一貫教育の推進と一人一授業を通じた授業改善 ○ 職員研修・主題研究の充実 ○ 3校合同研究の推進 3 読書活動の推進 ○ 年間貸し出し1人100冊以上 ○ 読み聞かせや多読賞表彰の実施 ○ 家読の推進・ノーマディアテ一設定・図書室の保護者開放 4 家庭学習の充実 ○ 「家庭学習の手引き」の活用と利用状況のチェック ○ 家庭学習の工夫	1 小中一貫教育のきまり定着 100%と集団規律の徹底 ○ 「学習・生活の構え」についての意識高揚 ・ 立腰・鉛筆の持ち方の徹底 「きまり」を守ろうとする態度の育成 ・ 無言の場・集団行動時の規律等の徹底 ○ 3校合同の学習・生活のきまりの100%徹底 2 道徳教育の充実 ○ 「特別の教科」道徳への対応（研修会への積極的な参加） ○ 授業公開（年1回）（保護者、学校運営協議会） 3 キャリア教育の充実 ○ 「こすもす科」の計画的な実施 ○ 地域人材（KSSVC）の活用 4 朝のボランティア活動100% 5 「幸ヶ丘太鼓」の取組及び作品応募を通じた自信とやる気と達成感の涵養 ○ 多くの発表機会の設定 ○ 外部講師招聘 6 教育相談の充実 ○ 毎月1回教育相談の実施 ○ 「すこやか委員会」の充実	【健やかな身体】 1 個に応じた体力向上の推進と新体力テスト5%アップ ○ 新体力テストによる課題改善 ○ 体力向上プランの策定 ○ 体育指導の充実（重点強化） 2 外遊びの奨励 ○ 毎週水曜日の外遊び日の充実 3 基本的な生活習慣の定着 ○ 「早寝・早起き・朝ごはん」 ○ ノーマディアデーの奨励 4 肥満率の解消 ○ 対象児への保健指導の充実 5 無欠席年間日数150日以上 6 むし歯治療率100% ○ 家庭への啓発 ○ フッ化物洗口 【望ましい食習慣の育成】 1 給食指導の充実 ○ ランチルームでのマナー指導・偏食指導の充実 2 体験活動と関連させた指導の充実 ○ 子ども農園での栽培・梅ちぎりなどの体験活動の充実 3 弁当の日の実施 ○ 年2回、発達段階に応じた弁当づくりの取組 4 家庭との連携 ○ 保健だより・学校保健委員会等を通じた家庭への啓発 ○ 休日の望ましい食習慣・手洗い・うがいの定着

**【今年度のPTA 三役】**

- 会長 村田 勇介 様  
 副会長 藤本 政嗣 様  
 副会長 福崎香奈美 様

**【今年度の学校運営協議委員】（5名）**

- 山田 博 様    ○ 村田 勇介 様  
 ○ 池田 浩子 様   ○ 松元 彩 様  
 ○ 立野のり子 様



今後も変更が予想されますが、**現段階での5月行事予定**を以下のようにお知らせします。

- 5/13（水）・15（金）・18（月）・20（水）：登校日、4時間学習・給食後下校  
 22（金）登校日（11時下校予定）      25（月）～授業再開（予定）  
 26：さつまいも苗植え    27：歯科検診    28：ALT来校    31：参観日

※読み聞かせ、放課後子ども教室は当面の間、休止します。 ※5月分のプールは中止します。

日本講演新聞

4月27日付社説  
「暗がりでも光を探し求めるように」

中部特派員  
山本 孝弘

最近、軽トラックの助手席に子どもが乗っている光景を何度か目にしました。

学校が臨時休校になり、低学年の子どもを預ける場所や面倒を見てくれる人がおらず、邪魔にならない範囲で父親の仕事に付いてきたのではないかと思われた。

先日テレビで、あるタレントがこんな発言をしていた。「ウイルス騒動がもたらしたプラスの面がある」とすれば家族間の会話が増えたことじゃないですか」

冒頭の光景もある意味、そのプラスの面として捉えられる気がする。働く親の姿を子どもに見せることができる職業は少ないかもしれないが、可能ならそれは素晴らしいことだ。

昭和40年代まで、田植えと稲刈りの繁忙期には家が農家であるかにかかわらず、学校を臨時休校にする地域が多かった。子どもたちが農作業を手伝うためである。平成初期までその慣習があったり、今でもその名残りを留める地方もあるようだ。

子どもの頃にその経験がある私の母は、「学校に行っているほうがよほど楽だった」と言っていた。そういう手伝いほど親の仕事の大変さを理解するのに効果のあるものはないだろう。

私は今、中学校や高校で生徒に講話をする活動をしているが、「仕事をする意味を伝えてほしい」と事前に依頼されることも多い。「お金を稼ぐこと」以外に働く意味を見出していない生徒が少なくないそうだ。

「働くとは何なのか」というテーマで、いろんな人のエピソードを話していると、だんだん生徒たちの目が開いてくるのが何度かあった。

定年退職した後に悠々自適に暮らせる貯蓄があるにもかかわらずボランティアをする人や、高額の報酬を放棄して過疎地や発展途上国に向いて医療を続ける医師がいる。

彼らの行動の意味を生徒に問い掛けると、「仕事を通して世の中の役に立ちたい」という思いが理解でき、お金を稼ぐだけではない目的を考え出すようだ。

さて、9年前に亡くなった私の父は中学を出てずっと工場で働いていた。私は仕事をしている父を見たことがない。

ただ、一度だけ、父がフォークリフトを思いのままに操って作業をするところを見たことがある。

うちの近所の小さな工場で何か荷崩れのようなトラブルがあり、土曜日だったため、工場にフォークリフトを操作できる人がいなかった。たまたま家の庭にいた父がその様子を目にし、「俺の出番だ」と言って勝手に作業着を着て張り切って手伝いに行ったのだ。

普通自動車免許すら持っていない父だったので、その姿は私にはとても物珍しかった。と同時にとても誇らしかった。

㈱タニサケの会長・松岡浩さんが書かれた小冊子「一流の日本人をめざして」にこんな話が載っている。

休みの日には昼間から焼酎を飲んでいただけの父親がいる。母親に「掃除の邪魔よ」とか「粗大ごみ」と言われて、「うまいこと言うな」と受け流し、怒るうともせず「グラグラ笑う父親である。」

息子はそんな父親を不甲斐ないと思っていた。友人の父親がみんな立派に見えて羨ましく思えて涙を流したこともあったという。

そんな彼がある日、偶然仕事をしている父親の姿を見る。高層ビルの建設現場だった。8階の最高層辺りで命綱を着けていた。遠く

に見える父親が偉大に見える。その場に立ち竦んだ。

「あの飲み助の親父があんな危険なところで働いている。体を張って僕を育ててくれてる。そう思った息子の目には涙が溢れていたという。」

息子は「あの父の子どもであることを誇りに思い生きていこう」と誓ったという話だった。

今回のウイルス騒動で、普段通り日々働き世の中を回していることがどれほど尊いことが痛感する毎日である。

そして在宅ワークや冒頭の例のようにその働くことの尊さを知らず子どもに見せる機会ができた人がいる。それも今回の件がもたらしたプラスの面と捉えたい。

暗がりでも光を探し求めるように、今は明るい話題を探して心を前向きにすることが世の中を良い方向へ変えていくことになるのではないだろうか。

※ 休校中にお父さん、お母さんの仕事を見る機会があるといいなと思います。保護者の方も自分の姿を見せていただけると嬉しいです。  
“大人は自分の人生を語れ！”  
と思います。